

講習の名称：彫刻制作を通した図工・美術科教育の展開

担当講師： 林 耕史

講習開講日：平成 29 年 8 月 22 日（火）

時間数： 6 時間

主な受講対象者：小・特支教諭，美術を担当する中・高教諭

キーワード：現代彫刻，インスタレーション，材料と技法，学習指導要領，美術教育

講習の概要：図工・美術科教育において、「立体に表す」「彫刻」題材が様々に実践されている。しかし、その題材は旧態のままのものが多く、定式化したものをなぞっている現状も見受けられる。本講座では、現代彫刻の多様性を概観するとともに、試作しながら彫刻とは何か検討し、彫刻制作を通した図工・美術科教育の具体的な展開を模索する。

講習の展開：

第 1 時限 現代彫刻を概観し立体造形としての特徴をとらえる。

第 2 時限 彫刻の材料と技法について概観する。

第 3 時限 木片を用いた彫刻試作を通し図工・美術授業への応用を検討する。

第 4 時限 彫刻制作を通した図工・美術教育の展開について考察する。

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）：

彫刻実習に必要な基礎的な技能を習得していることが望ましい。

授業の形式：講義及び演習

履修認定試験：論述形式の筆記試験（ノートなど資料持ち込み可）。

講習を通して検討した「彫刻と図工・美術教育への展開」についての考察を求めます。

テキスト・参考文献：

特に指定しませんが、彫刻の作品集或いは展覧会・個展カタログなど 1 冊以上、目を通しておき持参してください。講習当日、各自の彫刻観を語ってもらう場面で使用を予定しています。

持ち物等：

- ・各自選択した画集等資料（上記参照）
- ・ラフスケッチ用のスケッチブック及び描画材料
- ・彫刻刀，小刀，やすり，のこぎり その他，「木の加工」の場面で小中学生が使用する程度の用具，工具で各自持参できるもの。
- ・制作場面があります。動きやすく多少汚れてもよい服装で臨んでください。尚，切削，研磨などでほこりが出たり工具を使ったりする場合があります。必要な方は，マスクや作業用手袋など用意してください。